

## 特集「オブジェクト指向技術」の編集にあたって

大須賀 昭彦<sup>†</sup> 大西 淳<sup>††</sup>

情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、過去7年間に渡って、毎年オブジェクト指向シンポジウムを開催し、オブジェクト指向技術の有用性、開発現場での問題点や利点、最先端の技法など多岐に渡る様々な議論を行ってきた。昨年8月に開催したオブジェクト指向2001シンポジウムでは、研究、実践、製品開発研究の3つの立場からの3件の基調講演、3件のパネル、6件のチュートリアル、モデリングワークショップ、デモセッションに加えて、投稿された論文を査読して採択した一般講演が20件と内容の濃いプログラムを組んだところ、総数で248名の参加があった。シンポジウムの目的は「日本の独創的な新しい技術の発信や運用経験などの情報交換の場を提供することによって、オブジェクト指向ソフトウェア開発に関して実践面から最先端の技術など、幅広く議論を行うこと」とし、活発な議論が行われた。

このようにオブジェクト指向技術は大変盛り上がりを見せており、学会員の関心も高いところから、オブジェクト指向2001シンポジウム等で発表された論文を中心として、オブジェクト指向技術に関連した研究開発全般について最新の研究成果や開発事例を掲載した特集号を発行することは、この分野の研究を一層推進するだけでなく、研究の最近の動向や水準を広く知らしめることにもなり、情報処理学会としても大変有意義なことと考え、本特集号を企画するに至った。

本特集号では、対象分野をオブジェクト指向技術に関連した領域全般とし、基礎・基盤技術、発展・展開技術、開発手法から教育や開発事例など論文を幅広く募った。特に通常の独創的な研究論文に加えて、実システムの構築、運用から得られた問題点や同様のシステムに広く適用可能な構築ポイントを明らかにし、その有用性を示した経験論文を積極的に評価することを方針とした。オブジェクト指向2001シンポジウムの発表者以外にも本対象分野に関連する研究開発者に対して、広く公募をしたところ、21件の論文投稿があった。

査読にあたってはオブジェクト指向2001シンポジウムで実行委員長を務めた大須賀とプログラム委員長を務めた大西がゲストエディタとなり、論文誌編集委員5名を含む、オブジェクト指向2001シンポジウムのプログラム委員を編集委員とする委員会を組織した。通常の論文査読プロセスと同様に、論文1編につき2名の査読者を割り当てて査読を行った。

本誌2001年7月号会告で募集を開始し、同年9月30日に論文募集を締め切り、2002年1月11日と3月6日の2回の編集委員会を経て、8件を採択した。採択論文の内訳は、シンポジウム関連論文が6件、一般からの投稿が2件となった。本特集号では、当初の狙いどおり、オブジェクト指向に関する基礎技術、発展技術、開発手法などの最新の成果を編集できたと考えている。

最後になるが、本特集号をゲストエディタ制度によって企画する機会を与えて下さった論文誌編集委員会と、多数の秀でた論文を投稿下さった方々に感謝する。また、論文査読に尽力戴いた特集号編集委員の各位に感謝したい。

### 「オブジェクト指向技術」特集編集委員会

- 編集長

大須賀昭彦(東芝)、大西 淳(立命館大)

- 編集委員

青山幹雄(南山大)、鯨坂恒夫(和歌山大)、天野憲樹(北陸先端大)、飯島 正(慶大)、井上健(横河電機)、上原三八(富士通)、岸 知二(NEC)、北山文彦(日本IBM)、楠本真二(阪大)、佐伯元司(東工大)、佐藤一郎(情報研)、高木浩則(NTT東日本)、玉井哲雄(東大)、中所武司(明大)、中島 震(法大)、中谷多哉子(SLagoon)、羽生田栄一(豆蔵)、深澤良彰(早大)、本位田真一(情報研)、三ツ井欽一(日本IBM)、渡部卓雄(東工大)

<sup>†</sup> 東芝

<sup>††</sup> 立命館大学